

1. 評価結果概要表

作成日 21 年 7 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870200217
法人名	特定非営利活動法人 つくし
事業所名	グループホーム つくし
所在地	敦賀市天筒町8 - 55 (電話) 0770-21-1331

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年5月29日	評価確定日	平成21年7月21日

【情報提供票より】 (21 年 1 月 25 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	15 人	常勤 8 人、非常勤 7 人	常勤換算 5.7 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	71,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	500 円
	夕食	650 円	おやつ	(昼食代に含む) 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4)利用者の概要

利用者数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	3	要介護2		3	
要介護3	4	要介護4		4	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 84.3 歳	最低 66 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	つるが生協診療所、(連携)泉が丘病院、岸本歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、敦賀市気比神宮近くの住宅街に位置し、畑や山等に囲まれた静かな環境の中にあり、木造二階建ての民家風の建物は周囲の住宅とも調和している。事業所全体が木で統一され、室内も色・光等の環境面にも配慮された居心地良い落ち着いた空間となっている。居室・リビング等の共用空間のどこを見ても清潔に保たれており、職員・入居者が素足で過ごすことができる。家庭的な雰囲気やプライバシーを保つため、壁への掲示物はできるだけ避け、居室の扉には名前や目印をしない等、配慮がなされている。認知症になっても普通の暮らしを通して、その人が持っている秘められた力を引き出していくという理念のもと、職員は入居者のできる・できないを決め付けるのではなく、できることを一緒に見つけていくという関わりを行っている。より良い介護を目指し、職員の質の向上のため日々、研修・勉強会・ミーティングを重ねており、今後とも入居者を支えるさまざまな取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果で指摘された災害対策に関し、事業所として避難訓練への地域住民の参加を働きかけているが、現在のところは実現に至っていない。運営推進会議についても日程の調整をするなど、地域の方が参加しやすいような配慮を行っているが、参加されていない状況である。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価にあたっては評価項目を全職員で分担し、それぞれが記入してきたものを持ち寄り話し合った。管理者・職員は、自己評価を日々のケアの振り返りや気づきの機会として捉えたとともに、グループホームに求められているものを再認識する機会としても前向きに取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催している。会議では、事業所からの報告、認知症や法令改正についての勉強会等を行っている。自治会長・地域包括支援センター職員・入居者・家族・理事長・管理者・職員が参加しているが、メンバーが固定されているため、より多くの地域の方に参加していただけるよう、日程の調整をするなどの働きかけを行っている。今後、市の担当者をはじめ民生委員等の参加を積極的に呼びかけ、いろいろな意見をもらい、事業所運営に役立てられることを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 家族会を設け、家族には運営推進会議にも参加してもらっている。事業所は、日頃から家族が気軽に相談できる関係作りを心がけている。また、苦情・相談があった場合には、苦情・相談システムに沿って解決を図り、迅速に事業所運営に反映できる体制ができています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は、地域の祭り・運動会・資源回収に参加したり、読み聞かせのボランティアを受け入れるなど地域と積極的に交流を図っている。近隣の方と挨拶を交わしたり、花の苗をいただくなど日常的な関わりもある。今後地域住民が気軽に事業所を訪問できるような取り組みを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間らしく穏やかな日々を送ることができる環境づくりや認知症になっても普通の暮らしを通して、その人自身が持っている秘められた力を引き出していくということを理念にし、事業所内に掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で、理念を共有している。職員は、入居者のできる・できないを決め付けるのではなく、日々の関わりの中で本人ができることを見つけていくなど、理念を反映した関わりを実践している。		
		2 地域との支えあい			
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、地域の祭り・運動会・資源回収に参加したり、読みきかせのボランティアを受け入れたりするなど地域と積極的に交流を図っている。近隣の方と挨拶を交わしたり、花の苗をいただくなど日常的な関わりもある。		今後も地域住民が気軽に事業所を訪問できるような取り組みを期待したい。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、評価項目を職員全員が分担し、それぞれが記入してきたものを持ち寄り話し合った。管理者・職員は、自己評価を日々のケアの振り返りや気づきの機会と捉えるとともに、グループホームに求められているものを再認識する機会としても前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催している。会議では、事業所からの報告、認知症や法令改正についての勉強会等を行っている。自治会長・地域包括支援センター職員・入居者・家族・理事長・管理者・職員が参加しているが、市の担当者や民生委員等にも参加してもらえよう、日程の調整をするなどの働きかけを行っている。		引き続き、市の担当者や民生委員等の参加を呼びかけ、今後の事業所運営に協力してもらえよう期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、随時日々の取り組みに関する報告や分からないこと等があればいつでも相談できる関係を築いているが、事業所が抱えている課題についての話し合いは行われていない。		事業所が抱えている課題を伝え、市の支援を得て解決していけるような働きかけを期待したい。
		4 理念を実践するための体制			
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、担当職員から家族に、入居者の日頃の様子や健康状態が書かれた手紙と写真を郵送している。また状況に応じ、管理者から家族に対し電話等で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けており、家族には運営推進会議にも参加してもらっている。事業所は、家族が気軽に相談できる関係づくりを心がけ、苦情や相談があった場合には、苦情・相談システムに沿って解決を図り、迅速に事業所運営に反映できる体制ができています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動は行わず、馴染みの関係による支援を行っている。日頃から職員が各ユニットの情報交換をしたり、ユニット間を行き来しており、事業所全体が馴染みの関係になっている。新人職員は、入居者との関係が築かれるまで他の職員と一緒に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては、管理者が職員一人ひとりから希望をとり、常勤・パートを問わず全職員が年3～4回研修に参加している。研修の報告は、報告書や資料を回覧する形で行っている。内部研修に関しても、職員から研修内容の希望をとり、希望に沿った研修内容としている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護支援専門員の会に管理者が参加したり、近隣の同業者の行事に参加したり、また招待したりして交流をもっている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望時には、管理者が自宅訪問を行い、本人や家族と話し合い、納得した上で入居に繋げている。また、入居前に何度も自宅訪問することで利用前に馴染みの関係を築き、不安を取り除いた上での入居となるようにしている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が一緒にテーブルにつき、お茶を飲みながらゆっくり過ごす時間をもたれていた。また、利用者一人ひとりの人柄やこれまでの暮らし方を把握し、その人に合わせた声かけや関わりがなされていた。入居者同士も会話を楽しんだり、他の入居者と関わったり支え合いながら暮らしている様子がうかがえた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、家族からの情報、入居者との日々の会話や関わりの中で気が付いたこと、担当以外の職員が気づいたことをその都度アセスメントシートに記入し、全職員が共有し日々のケアに役立てている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い・意見を聞き、事業所全体で話し合い、介護計画を作成している。介護計画には入居者の思いや現状の課題に対応されたものになっていることが確認できた。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員をはじめ全職員が日々の関わりで気が付いたことやケアプランに反映してほしいことを毎月1回のミーティングで話し合い集約し、3か月に1回の介護計画の見直しに反映している。また、管理者と家族は随時連絡を取り、見直しの際には家族からケアプランに対する意見を文書で返信してもらうなど家族の意見も反映させた介護計画になっている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊希望にも対応できる準備が整っている。 入居者が入院した際は職員が面会に行き、食事の介助をするなど本人が安心して過ごせるように配慮するとともに、入居者の状況を把握し事業所にスムーズに戻れるようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医での受診が継続できる。認知症等の専門医の受診が必要な場合は、本人・家族の了承を得た上で協力医に変更している。受診は、特別な場合を除き事業所に対応している。受診の際には、毎日のバイタル等のデータや記録を持参し、担当医に日頃の様子を詳しく伝えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、本人や家族の意向を聞き、事業所としてどこまで対応可能かを説明している。事業所として、本人や家族が望む限り看取りをしていきたいと考えているが、看護職員が不在のため対応が困難な状況にある。		看取りが可能な体制を整えるためにも、今後とも協力医療機関との連携を強化し取り組まれることを期待したい。
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの誘導はさりげない声かけが行われ、入居者の後ろで見守る様子が確認できた。介護記録等の個人情報は目につかないよう事務所内に保管され、居室に氏名を掲げない等の配慮もなされていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者一人ひとりの体調や気分に対応した関わりがなされている。職員は入居者と同じ目線で、それぞれのペースでゆっくりと関わっており、散歩等の個別支援も行われていた。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・食事・後片付けと食事の一連の動作を入居者と職員と一緒にやっている。椅子に座りながらできる調理や食後の食器拭き等、一人ひとりができることに参加している。食事中、会話を楽しんだりおかわりを勧めるなど自由で家庭的な雰囲気を感じられた。食器は、入居者それぞれが気に入ったものを使用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日・時間帯は決めずに本人の希望の時間に入浴することができる。基本的に職員と入居者が1対1で落ち着いて入浴できるようにしている。入浴を拒む入居者には、職員も一緒に入浴するなどして誘導している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノが得意な入居者には演奏してもらったり、男性入居者にはラジオ体操の指導をお願いするなど、入居者一人ひとりの力を発揮できる機会を作っている。また、カーテンの開け閉めや洗濯物干しや洗濯物をたたんでもらっており、職員は感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材や日用品の買い物、飲食店・カラオケ店への外出等、日常的な支援をしている。毎週月曜日には、スーパーの送迎車を利用し、職員・入居者が一緒に買い物に出かけている。また、馴染みの美容室・お寺・自宅等、個別の希望に添った外出支援もしている。		
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。職員は常に入居者の気配を感じ、外出を希望する入居者の気持ちや行動を把握するようにしている。外出した場合には、引き止めず、職員が後ろからさりげなくついていき落ち着いた頃に声をかけ、一緒に戻るよう本人の気持ちに配慮した対応をしている。なお、夜間は防犯上施錠している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全国認知症グループホーム協会の防災マニュアルを備え付け、年2回、避難訓練を実施している。また、訓練に消防署の方にも参加してもらい、消火器を使った訓練も行っている。消火器は、入居者の生活に支障がなく、すぐに取り出せるような場所に収納されている。		避難時はエレベーターが使用できなくなるため、消防署に協力してもらって2階の入居者を安全に避難させるための避難訓練を行うよう期待したい。また、夜間時は少人数の職員が対応しなければならないので、今後も地域住民への協力を呼びかけ訓練に参加してもらえる取り組みを期待したい。
		(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの一日の水分摂取量をチェックしている。食事が進まない方には、本人が食べやすい食品を個別に用意し、栄養摂取が確保できるように工夫している。献立は、栄養バランスやカロリーを大まかに把握しているが、専門的なチェックはなされていない。		利用者一人ひとりの食事内容や摂取量を記入し、それを基に管理栄養士や保健師等から定期的にアドバイスを受ける取り組みを期待したい。
		か			
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体が木で統一されており、ぬくもりを感じ落ち着いた環境になっている。食事の場所以外の共有スペースには、畳や廊下の長椅子等、少人数で気楽にくつろげる空間もある。壁面への掲示物はできるだけ避け、家庭的な雰囲気大切にしている。浴室やトイレ等も清潔で手すりも設置されており、安全に配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす・鏡台・座卓・仏壇・家族の写真等、馴染みのものを持ち込んでおり、入居者の個性が活かされた居室となっている。		

■は、重点項目。

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の思いを大切に家庭的な環境の中で、潜在能力を引き出せる関わり、地域との繋がりがあがる環境」を理念に置いている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議等で入居者一人ひとりの生活のあり方、介護方針等を検討する機会を設けている。		日々の反省から職員の意識を高める。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会で、機会ある毎に、理念の理解や浸透を図っている。		運営推進会議のメンバーである区長や民生委員の方の参加が出来ていないので、地域へ理念や運営方針の理解・協力を深める為にも、参加して頂けるような工夫をしていきたい。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤時や退社時、気軽に挨拶している。ホームで植えたお花を見に来てくれたり、入居者と共にこちらから見せて頂いたりしている。		ホームの玄関先だけでなく、気軽にお茶でも飲んでいって貰えるような声掛けをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや廃品回収には参加しているが、老人会の参加は難しく現状は出来ていない。ボランティアの読み聞かせの方も来所されている。		認知症への理解がなかなか得られず、老人会への参加が難しいが、今後も入会に向け、働きかけを続けていきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の会合で認知症理解の講演を行っている。介護の勉強をしている高校生の実習やボランティアの応募をしたが今年参加が無い。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のためのミーティングを全職員で行っている。		今後も外部評価の結果を全職員で検討し、改善できる所は改善し、サービス向上に努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に地区組長・包括支援センター職員、ご家族代表を交えて開催している。評価結果も報告し、参加メンバーが自由に発言できる機会を設け、意見を出し合っており、サービス向上に活かしている。		区長・地区組長・民生委員も参加し易いように、日程調整を工夫していきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者がいつでもホームに入れる様、そして、市からの指導がいつでも受けられる体制にある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用中の入居者がいるため、ミーティング時、職員への説明を行った。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加した職員が、全体ミーティング時に伝達講習を行い、周知徹底し防止に努めている。		職員の意識向上と理解を深める。
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項は、入居契約書の書類と共に、口頭でも説明を行っている。入院などがある時は、その都度ご家族と、共に今後のあり方を話し合っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回市から介護相談員を派遣してもらっている。		介護相談員側からの意見を聞かせて頂きたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、担当スタッフからご家族へ、ホームでの暮らし振りや健康状態等を写真とお手紙で知らせている。金銭管理については領収書を明示し報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当窓口を文書で配布している。その他、ご家族との関わりの中で、何でも話してもらえる関係作りに取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で、自由に発言できる体制を取り、意見交換の場を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート職員を増やし、受診時や行事等の時は職員の数を多めにとるなど、柔軟に対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定し馴染みの中で安心したケアを受けられる様に配慮している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、事業所内での勉強会を行っている。		質の向上のための研修への参加の機会を、今後も出来るだけ多く取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーは非常勤の為、地域のケアマネとの交流会には参加できていないが、他のグループホームへは、行事の参加招待などを行い交流の機会を設けている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	それぞれが相談できる役職構成を行っている。 スタッフ サブリーダー リーダー 主任 管理者 理事長		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が責任ある役割り分担を持っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居希望には事前に面談と心身の状態・意向について理解するように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族の要望と事業所の『出来ること・出来ないこと』の話し合いをしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決め対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が入居申込みの段階から、面談の機会を多く設けるようにし、顔馴染の関係につなげている。		入居によるダメージの軽減のためにも、事業所見学も含めた事前面談を今後も出来るだけ多く持つように配慮していきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の使い方や日常動作・暮らしの知恵、些細な言葉一つでも人間性や思いやりの意味等、入居者との関わりの中で、職員も勉強させて頂いている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	最低でも月1回は来所して頂けるような体制を作り、家族との交流の機会を設け、また、本人や事業所への想い等もその都度話ができる様に関係作りを行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊の制限は無く、また家族の宿泊も出来るように環境も整えている。ご家族が来所された時には、気兼ね無く寛いで過せるように居室での関わりにも配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店やお菓子屋に行ったり、昔からの友人知人の訪問もある		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者と食事のテーブル席を並べたり、趣味の合う方とビデオ鑑賞したりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の入院先に行き、様子を見に行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「出来ないから」と言ってさせないのではなく、少しずつでも出来る様に職員が支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を得ながら、センター方式のシートの書き込みを行い把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方は強制せず、見守り主体に必要な応じた援助等、個々に対応している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎にケアプランの評価や・見直しを行い、入居者・ご家族の想いを反映させていけるようにしている。毎月1回ミーティングを行い、定期的に担当者会議も行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで、問題点等意見を出し合っており、3ヶ月毎に定期見直しを行っている。また、状況変化に応じて随時計画変更や見直しも行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分摂取量、24時間排泄シートへの記載を始め、生活記録には本人が発した「生の言葉」を記録する等を行い、職員勤務交代時に申し送りを行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間ケアを通してみえてくる状態変化を把握しながら、必要に応じた医療機関受診等も随時対応している。また、遠方のご家族で希望があれば宿泊して頂けるようにも配慮している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	婦人会からは踊りのボランティア、介護相談員が入居者と対話をされたり、地区住民にも声掛けての消防訓練を行っている。		今後も地域に呼びかけを行いながら、学校・保育園等の協力や理解を頂き、訪問に来て頂けるように取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退去や入院などが必要になった時には、移動先の担当者に情報提供を行い、ケアの継続が行える様に配慮している。事業所内ではベッドの必要性がある入居者に対して、ベッドリースの手配も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとしても参加して頂いており、助言等お願いしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医を継続して受診しているが、状況に応じて専門医の受診などが必要な場合などでは、本人やご家族の了解を得て協力医に変更する場合もある。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族に了解を得た上で、必要に応じて認知症専門医の受診を取り入れている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	以前は看護職員が勤務していたが、結婚退社に伴い看護職員は従事していない。その為、受診時に病院の看護師に相談したりしている。		看護職員の雇用を早期に実現し、入居者の健康管理や医療面の連携を強化していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には面会や、食事拒否をする入居者には食事時間の面会で食事介助を行うなど、早期退院につなげられる様に支援している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>基本的にはご家族や本人が望む限り、「看取りまで」を対応していく方針であるが、今の事業所として、どこまで重度化の対応が出来るのかを職員やご家族と話し合っている。</p>		<p>重度・終末期の対応が、職員配置(看護職員)の面で不十分なため、早急に対応していく必要がある</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>チームで「看取り」を取り組む想いがあるが、ソフト面で看護職員が不在であり、対応変化に応じるには不十分なため、現状では難しい状況である。</p>		<p>重度・終末期の対応が、職員配置(看護職員)の面で不十分なため、「看取り」まで希望する入居者の為にも、早急に対応していく必要がある。また、対応が出来る様に研修にも参加していきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入院時や他の事業所に移られた時には、ケアプランやこれまでの生活支援状況の情報提供を行い、ケアの継続と精神的ダメージへの配慮を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄面では、他入居者に気付かれないように声掛けを配慮したり、パジャマに着替える時には居室で行うように支援している。</p>		<p>今後も更にプライバシーの保護に努めていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>いくつかの選択肢を提案し、入居者に選んで頂けるようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大体の一日の流れはあるが、その中で入居者自身がやりたい事等、自由に過ぎて頂いている。</p>		<p>入居者が様々な活動に参加しやすくなるように、一人一人に応じた能力を活かせる取り組みを工夫していきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入浴準備や朝の更衣の時など、出来るだけ本人の好みで選択して頂いている。また、散髪や白髪染めなども希望時には随時対応している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の買出し、食事の準備・片付けなど、職員と一緒に選んだり取り組んだりしている。一緒に同じ食事を摂りながら、また、旬の食材を馴染みの調理法で提供するなど、会話にも繋がる様に配慮している。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの嗜好品を知り、おやつや食事の取り入れるようにしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	24時間排泄シートを活用し、本人の状況に応じて声掛けするなど配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個浴対応で、希望あれば毎日入浴できるように支援している。汚染状況に応じて柔軟に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体操で適度な運動も取り入れながら、一人一人の状態を把握しながら横になって頂いている。また、必要な入居者に対しては担当医の指示の下、眠剤の服用を行い安眠の確保にも取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	屋外行事はユニット毎に企画し、普段は一人ひとりに合ったそれぞれの仕事に取り組んで頂き、達成感等の支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭支払いについては事業所が立て替えているが、金銭支払いの行為を入居者に行っていただくなどで、お金の意味を理解継続できるように取り組んでいる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買いだめをしていないので、職員と一緒に毎日食材購入に出かけている。天気の良い時には、近くのコンビニまで散歩買物や、玄関先の縁台で日光浴なども随時行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーション等で普段行けない場所を企画したり、花見等の季節行事はご家族にも参加声掛けし、一緒に楽しい時間を過ぎて頂いている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・友人知人など、気軽に来所して頂けるように声掛けしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、ミーティングで話し合い、身体拘束をしないケアを徹底している。身体拘束委員会を設置しマニュアルを設けている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯施錠のみ行っているが、日中は見守りケアで玄関開放を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在や行動を把握できるように見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲すると生命に関わる物は手の届かない所や目につきにくい場所に保管し、薬品はスタッフルームで管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状況に応じた見守りを必ず行うようにしている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置の研修参加や、消防署に協力していただき救命訓練など全職員で受講している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成しているが、年2回の避難訓練も取り組んでいる。		入居者の安全につなげる為にも、地域住民の協力や理解が深まる様に、今後も参加を呼びかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの見直しの時など、起こり得るリスク・拘束しない介護によるリスク等説明し、理解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェック確認を行い、異常があれば管理者に報告し必要な時は病院受診を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を管理し、スタッフがいつでも内容確認出来るようにしている。処方変更があった時には申し送り周知するようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を使用しているが、出来る限り自然排便が出来る様に、乳製品や食物繊維等を多く摂取できるように配慮している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っており、自分で出来ない入居者へは職員が介助している。夜間は職員管理の下、義歯洗浄を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間水分摂取表で摂取状況を確認し、足りない入居者には夜間でも補水対応している。献立表で把握するようにしているが十分とは言えない。		献立表をもっと活用し、栄養バランスの良い食事に配慮していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し対応している。また、全入居者・職員はインフルエンザ予防接種を受けており、共有空間の物品は除菌・消毒を心掛けている。		各種感染症講習等出来るだけ参加し、入居者の変化を見逃さないように早期発見・早期対応が出来る様にしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が冷蔵庫内の在庫チェックや調理器具の消毒を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には入居者と共に世話をしている季節の花々を植え、階段とスロープで身体能力に応じて自由に出入りできるようにしている。建物は近隣との調和が取れる民家造りである。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明を明暗で使い分けたり、季節の花々を生けたり、その時季の応じた飾り付けを入居者と共に行っている。(ひな人形・鯉のぼり・七夕笹飾り・クリスマスツリー等)		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチやソファなどを設置し、好みの場所で過ごしていただけるように配慮している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品は持ち込んで頂いている。居室の掃除も自分で出来ることを取り組んで頂けるように、職員と一緒にやっている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	陽気の良い時には窓を開けての換気を行いながら、フロアや居室にはエアコンと空気清浄機を、トイレには暖房機能付き空気清浄機を設置しながら、消臭剤で臭いにも配慮している。		

項目番号	項目		印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に手すりを設置したり、職員が声掛けし見守りすることで、自立した生活が継続できるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が声掛けし、失敗しても本人のプライドが傷付かないよう、安心して取り組めるように見守りしている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	縁台やテラスでの日光浴や玄関周りの花の世話、洗濯物干しなど、入居者が生活を楽しめるように工夫している。		建物が一般民家造りと事業所看板を挙げていないので、初めての来訪者には事業所の所在が判り難いため、周辺商店との交流を深めたり、玄関先の花壇の世話などを通して事業所の所在を周辺に浸透させていきたい。
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と潜在能力を引き出しながら活用できる環境、地域との繋がりがあがる環境作りを理念においている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議等で入居者個々の生活のあり方、介護方針等を検討する機会を設けている。		職員の意識を高める等、スタッフ会議などで情報交換や共有を図り入居者の支援をしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会への参加者も増えてきているのでその都度説明しているが、ホーム便り等でも伝えている。		
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物に出掛けた際、近隣の人々に挨拶をしている。		職員・入居者共に、気軽に声を掛け合えるように今後も努めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方にボランティアで琴演奏や踊りを披露して頂きながら交流を図っている。地域の行事や廃品回収等にも参加している。		認知症への理解がなかなか得られず、老人会への参加が出来ていないが、今後も入会に向け、働きかけを続けていきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の会合で認知症理解の講演を行っている。介護の勉強をしている高校生の実習やボランティアの応募をしたが今年は参加が無い。		
	3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のためのミーティングを全職員で行い、情報交換し具体的な改善に取り組んでいる。		外部評価の結果を全職員で検討し、改善できる所は改善し、サービス向上に努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に地区組長・包括支援センター職員、ご家族代表を交えて開催している。近隣の方の意見・要望や評価結果も報告し、参加メンバーが自由に発言できる機会を設け、意見を出し合っており、サービス向上に活かしている。		区長・地区組長・民生委員も参加し易いように、日程調整を工夫していきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者がいつでもホームに入れる様、そして、市からの指導がいつでも受けられる体制にある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用中の入居者がいるため、ミーティング時、職員への説明を行った。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加した職員が、全体ミーティング時に伝達講習を行い、周知徹底し防止に努めている。		職員の意識向上と理解を深める。
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項は、入居契約書の書類と共に、口頭でも説明を行っている。入院などがある時は、その都度ご家族と、共に今後のあり方を話し合っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回市から介護相談員を派遣してもらっている。		介護相談員側からの意見を聞かせて頂きたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、担当スタッフからご家族へ、ホームでの暮らし振りや健康状態等を写真とお手紙で知らせている。金銭管理については領収書を明示し報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当窓口を文書で配布している。その他、ご家族との関わりの中で、何でも話してもらえ関係作りに取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で、自由に発言できる体制を取り、意見交換の場を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート職員を増やし、受診時や行事等の時は職員の数を多めにとるなど、柔軟に対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定し馴染みの中で安心したケアを受けられる様に配慮している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、事業所内での勉強会を行っている。		質の向上のための研修への参加の機会を、今後も出来るだけ多く取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敦賀市のケアマネージャーの会に管理者が参加したり、他のグループホームの入居者を、当事業所の行事に招待するなど交流を図っている		様々な福祉関係事業所との交流の機会を増やしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	それぞれが相談できる役職構成を行っている。 スタッフ サブリーダー リーダー 主任 管理者 理事長		系列の事業所との親睦会を行い、ストレスや悩みを把握するようにしているが十分とは言えないため、今後も職員の精神面のサポートに取り組んでいきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が責任ある役割り分担を持っている。また、資格取得の為勤務割を優先するなど配慮も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居希望には事前に面談と心身の状態・意向について理解するように努めている。ケアマネージャー・医療関係者や家族の方からも情報を頂いている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族の要望と事業所の『出来ること・出来ないこと』の話し合いをしている。		家族は入居を望む為に言い難い事もあるのではないかとこの事に配慮しながら、話し合いの場の雰囲気作りにも工夫していきたい
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間の申し送りを密にして、常態の把握に努めながら、本人にとっての優先順位を決め対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の体制はとっていないが、家族には見学に来て頂くようにしている。		今後も事前面談の機会を出来るだけ多く持つようにしていきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	関わりの中で季節行事や食事内容などを入居者に相談している。		今後も季節行事はなるべく取り入れていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族に対しては最低でも月1回は来所して頂けるような体制を作り、家族との交流の機会を設け、また、本人や事業所への想い等もその都度話が出来る様に関係作りを行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊の制限は無く、また家族の宿泊も出来るように環境も整えている。ご家族が来所された時には、気兼ね無く寛いで過せるように居室での関わりにも配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室・喫茶店やお菓子屋に行ったり、昔からの友人知人の訪問もある		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士と一緒に対話出来るような環境作りに取り組み、仲の良い方や趣味の合う方との余暇を過せるように場面作りを行っている。		色々な行事やレクを通して、入居者間の関わりや理解を深められるように工夫していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の入院先に行き、様子を見に行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れているが、把握が難しい入居者については、発する言葉や表情から意向を汲み取るように努力している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を得ながら、センター方式のシートの書き込みを行い把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過し方は強制せず、見守り主体に必要な応じた援助等、個々に対応している。		今後も出来る限り職員の都合で、一日の流れを乱す事の無いように取り組んでいきたい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や想いを書き込めるお手紙を毎月送付・返信して頂きながら、ケアプランの評価や・見直しを行い、入居者・ご家族の想いを反映させていけるようにしている。評価内容についてもご家族に報告している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで、問題点等意見を出し合っており、3ヶ月毎に定期見直しを行っている。また、状況変化に応じて随時計画変更や見直しも行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分摂取量、24時間排泄シートへの記載を始め、生活記録には本人が発した「生の言葉」を記録する等を行い、職員勤務交代時に申し送りを行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームだからこそ出来る、日用品購入等の小さな事から、医療面や終末期にまで至る大きな事まで、生活全般に対して柔軟に対応できるように、関わりを行っている。		家族も含めた、および入居者全体を捉え、状況に応じて対処が出来るように今後も努力していきたい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	婦人会からは踊りのボランティア、介護相談員が入居者と対話をされたり、地区住民にも声掛けての消防訓練を行っている。		今後も地域に呼びかけを行いながら、学校・保育園等の協力や理解を頂き、訪問に来て頂けるように取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退去や入院などが必要になった時には、移動先の担当者に情報提供を行い、ケアの継続が行える様に配慮している。事業所内ではベッドの必要性がある入居者に対して、ベッドリースの手配も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとしても参加して頂いており、助言等お願いしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医を継続して受診しているが、状況に応じて専門医の受診などが必要な場合などでは、本人やご家族の了解を得て協力医に変更する場合もある。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族に了解を得た上で、必要に応じて認知症専門医の受診を取り入れている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	以前は看護職員が勤務していたが、結婚退社に伴い看護職員は従事していない。その為、受診時に病院の看護師に相談したりしている。		総合的に判断統括できる看護職員の雇用を早期に実現し、入居者の健康管理や医療面の連携を強化していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には交代で職員が面会に行き、状況の把握と情報交換を行い、早期退院につなげられる様に支援している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>基本的にはご家族や本人が望む限り、「看取りまで」を対応していく方針であるが、今の事業所として、どこまで重度化の対応が出来るのかを職員やご家族と話し合っている。</p>		<p>延命・ターミナルについて家族の意向は確認しているが、全員の意思確認書として文書化していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>チームで「看取り」を取り組む思いがあっても、ソフト面で看護職員が不在であり、対応変化に応じるには不十分なため、かかりつけ医との連携・支援を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入院時や他の事業所に移られた時には、ケアプランやこれまでの生活支援状況の情報提供を行い、ケアの継続と精神的ダメージへの配慮を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄・入浴時等の配慮を行い、特にトイレの声掛けは、他人入居者に気付かれないように配慮している。</p>		<p>今後も更にプライバシーの保護に努めていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>個々に合わせていくつかの選択肢を提案し、入居者に選んで頂けるようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大体の一日の流れはあるが、その中で入居者自身がやりたい事等、自由に過ぎて頂いている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>好みの服を把握し、季節に応じた着衣が出来る様に見守っている。また、美容院利用時には同行し利用して頂いている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>希望の食事をや献立を伺い、毎日の食材買物で購入したり、希望外食も取り組んでいる。食事の準備・片付けは職員と一緒にやっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの嗜好品を知り、おやつや食事の取り入れるようにしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	24時間排泄シートを活用し、排泄パターンやサインを把握し失禁回数を減らせるように取り組んでいるが、本人の状況に応じて定期的に声掛けする事なども行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には時間は定めているが、本人の希望やその日の本人の状況に合わせて柔軟に変更し、個浴に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室での休息・午睡は自由に行ってもらっているが、時間を見計らって起きて頂くようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事準備・洗濯物干し・たたみ等、出来る仕事をして頂いている。歌やカラオケ・屋外活動を楽しみにされている。		屋外活動が困難な入居者が増えてきているが、出来るだけ屋外活動で五感を刺激しながら、事業所内活動や行事も増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る入居者は自分で買物を行って頂いている。出来ない入居者については、事業所立替で金銭管理を行い、毎月明細と共にご家族に報告している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「買い物に行きたい」と希望された時には状況に応じ対応している。また、散歩等の声掛けも行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーション等で普段行けない場所を企画したり、花見等の季節行事はご家族にも参加声掛けし、一緒に楽しい時間を過ぎて頂いている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規制は無く、個人に掛かってきた電話は居室でゆっくり話して頂いている。手紙は、ご家族に住所等を確認しお願いしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等の規制はしていない。顔見知りではない訪問者には、玄関にてお名前等確認する時もある。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、ミーティングで話し合い、身体拘束をしないケアを徹底している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯施錠のみ行っているが、日中は見守りケアで玄関開放を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在や行動を把握できるように見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲すると生命に関わる物は手の届かない所や目につきにくい場所に保管し、薬品はスタッフルームで管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険をケアプランに反映している。ヒヤリハットの報告・記録を下に予防対策を検討している。消防訓練も取り組んでいる。		ADLの低下によるリスクを、事前に把握し早期対応が出来る様に取り組んでいきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当での研修参加や、消防署に協力していただき救急手当や蘇生術の研修を全職員で受講している。		実践としての事例が無いので、職員個々の実力の把握が出来ていない。定期的に繰り返し取り組んでいく必要がある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成しているが、年2回の避難訓練も取り組んでいる。		訓練に近隣の参加を呼びかけるちらしを配布しているが、近隣参加には至っていないので、今後も呼びかけを継続する必要がある。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの見直しの時など、起こり得るリスク・拘束しない介護によるリスク等説明し、理解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェック確認を行い、異常があれば管理者に報告し必要な時は病院受診を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を管理し、スタッフがいつでも内容確認出来るようにしている。処方変更があった時には申し送り周知するようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	医師の指示による緩下剤のコントロールを行いながら、出来る限り自然排便が出来る様に、乳製品や食物繊維等を多く摂取できるように配慮している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っており、自分で出来ない入居者へは職員が介助している。夜間は職員管理の下、義歯洗浄を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間水分摂取表で摂取状況を確認し、足りない入居者には夜間でも補水対応している。献立を記録に残し、栄養面に配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し対応している。また、全入居者・職員はインフルエンザ予防接種を受けており、共有空間の物品は除菌・消毒を心掛けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が冷蔵庫内の在庫チェックや調理器具の消毒を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には入居者と共に世話をしている季節の花々を植え、階段とスロープで身体能力に応じて自由に出入りできるようにしている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時季の応じた飾り付けを入居者と共に行っている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースや長椅子を利用して、個々の好みの場所で自由に過せるように配慮している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品は持ち込んでおり、安全にも配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇や窓での換気を日々行い、エアコン等の機械類は定期的に掃除等の手入れも行っている。トイレは消臭剤も使用している。		

項目番号	項目		印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLに応じた居室の工夫(ベッドの使用)や手すりの設置を行い、自立した生活を継続できるように配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ・風呂場等の入り口に写真などを配置し、場所の確認が出来るように工夫している。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に花を植えたり、縁台に座り楽しめるように工夫している。生活感が感じられる様に洗濯干し場が見えるような配慮もしている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

より良い介護を目指し、職員の質の向上の為に研修・勉強会・ミーティングを重ね、管理者との連絡を密にしている。